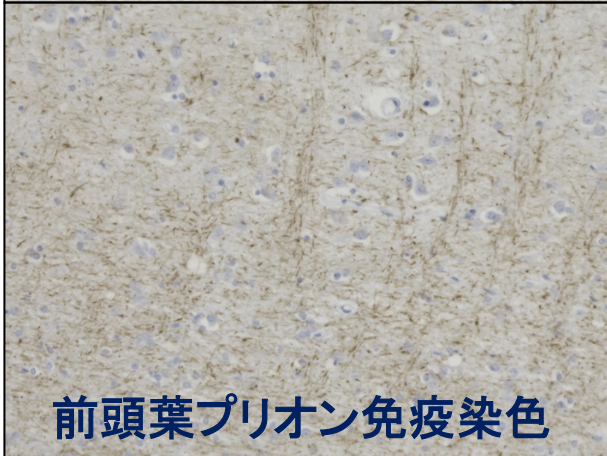
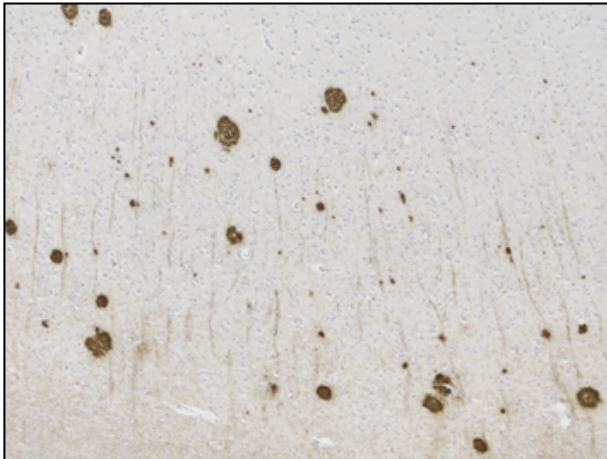


ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病における新規病理所見 プリオン病剖検率向上のための取り組み

研究分担者: 東京都健康長寿医療センター 高尾昌樹

ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病A117V 変異



前頭葉プリオン免疫染色

プリオン病剖検率向上のために
(群馬県伊勢崎市美原記念病院
の取り組み)

プリオン病患者
入院の受け入れ

死亡時剖検
(100%)

平成24年
5例

神経病理診
断を施設で
完結

プリオン病患者
剖検受け入れ

死亡後症例
の搬送(施設
負担)

平成24年
4例

解 説

1. 米国との共同研究で、GSSA117V 変異では、皮質、皮質下白質の神経線維に沿ったPrP沈着を認めることを初めて明らかにした。
2. プリオン病剖検率向上のため、美原記念病院で、プリオン病患者の受け入れと、御遺族のご理解により全例剖検を施行。剖検不可能な施設からの依頼も可能な範囲で迎えを出して剖検を施行(24年度は硬膜移植関連CJD症例の剖検に対して往復600kmの搬送をご遺族からの希望で引き受けた)。